

埼玉退教

2022年度 第1号 発行 者 石川 博
発行日 2022年11月14日 編集責任者 長沼 清英
発行元 〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-13-10 ヤギシタビル4F
Email donpo0958@gmail.com

埼玉退教 紙上総会を終えて

会長 石川 博

コロナ禍により、第31回埼玉退教総会は例外的に全会員による紙上総会となりました。総会議案書は「会費納入のお願い」と合わせて8月に会員宛てに送付しました（比企および児玉支部の会員にはそれぞれの支部役員会を通して配布）。9月末までに届いた「賛否結果・意見」の返信ハガキに基づきすべての議案（第1号～第6号）について賛成多数で各議案とも成立しました。記入していただいた「ご意見」は次の通りです。

- 20年度決算書（第1号議案）に反対。会費未納者が半数以上、どうするのか明確に会員に伝えてほしい。
- 第5号議案に反対。なぜ「事務局員を除く」のか理由が分からない。
- 「特別会計」とは・・・？ 主旨、内容等不明、要説明！
- 日教組組合歌（作詞 今井宏史）、緑の山河、懐かしく忘れていない、歌ってみました。60年前、学テ・勤評を思い出します、1日ストライキ等。今井さんは浦和支部の先輩です。原発新規建設反対、医療費窓口負担2割反対、頑張ってください。
- 安倍元首相は徹底して教員を目の敵にした人でした。安倍政権の功罪（功はないですが）をしっかり総括するよう、日教組が政府にもっと強く訴えてほしいと要請したいです。
- 第2号議案2の(6)について、現状分析がおかしいのでは？今や日本は再生可能エネルギー開発技術後進国になってしまった。遅ればせながら、この技術開発に国策として集中投資し、日本の再生可能エネルギー化を急がねば、日本、地球の気候危機は救えないと思うが。
- 第2号議案、具体的な活動方針(12)〈75歳以上の医療費窓口2割負担・・・に反対し、・・・再配分を求める〉、退教は高齢者集団です。(12)のあたりを詳しく知りたいし、運動できたら良いと思います。
- 会員の減少と野党の不振が残念です。年金も不平等で先が見えず、貧しい人が増え、ロシアの暴挙に依って世界中が軍拡に動きそうな悪い世になってしまった。貴重なご意見をありがとうございました。会場で質疑の機会があれば、疑問点を解消していただくこともできたのではないかと考えます。何点かコメントさせていただきます。
- 決算書で「収入の部」の予算額・決算額から単純に年会費1,500円として会費納入者の割合を計算すると、2019年度は85%、20年度は44%、21年度は81%です。会費の集金方法については、比企および児玉支部の会員はそれぞれの支部からまとめて納入していただいています。

す。2支部以外の会員には埼玉退教だよりの発行に合わせ、郵便局・ゆうちょ銀行振込用紙を同封して「会費納入のお願い」をしています（20年3月からは金融機関などを複数化しました）。

20年度は、新型コロナウイルス感染対策で学校が全国一斉休校するなど異常な状況でスタートしました。この状態が続いて、埼玉退教だよりが発行（振込用紙同封）されたのは年明け21年1月15日でした。また、比企支部では会員宅を訪問しての集金は取りやめ、21年度に2年度分を集金していただきました。20年度の会費納入状況が悪かったのは、これらの理由が考えられます。

コロナ禍は、その後も感染者数の増減が現在までに第7波を重ねています。8月に総会議案書と一緒に送付した振込用紙には、個々の会員のこれまでの会費納入記録に基づく金額を記入しました。会員の皆様のご理解、ご協力をお願いする次第です。

●第5号議案は、常任委員会の構成メンバーの確認です。第21回総会（2010.5.16）で会則が改定される前は、「常任委員会は総会、代表者会議の決定により、会務を執行します」としての機関でしたが、会則変更により「常任委員会は総会につぐ決議機関で、必要に応じて開きます」とされ、それまで支部代表者と役員（今回の第4号議案の役員一覧表の役職と同じ）によって構成されていた「代表者会議」に代わる決議機関となりました。また同時に、今回の第4号議案の「役員一覧表」の役職に「事務局員」が加えられて現在の「会則12条」となりました。事務局員は、「常任委員会」ではなく会則第6条の「事務局会」の構成メンバーとなります。

●会則第15条は、「この会の経費は、会費その他の収入を充てます。会費は年会費1,500円とします。」です。また、会計細則には、「①会計の種類は、一般会計及び特別会計とします。・・・」とあります。会則の「その他の収入」は、決算書にある囲碁大会への補助金（退職者の共済会から）などです。

特別会計については、埼玉退教が発足した30年ほど前には当時の日教済（1996年からは教職員共済）から各県に対して補助があり、県からは各支部に対して補助をしていたと聞いています。現在はこのような補助はありませんので、亡くなった高橋勇さん（埼玉退教の前事務局長・会長）は物資（うどん等）販売の利益を活用していました。また、「敗戦70年史 語り継ごう 戦時・戦後体験」（2016.3.31発行）の販売、会員からの寄付なども収入源です。支出は、特別会計の通帳のメモ書きから、前記冊子の作成等の経費、日退教から依頼があった各種被災地単会へのカンパなど臨時的なものや沖縄現地集会に参加していただいた会員への高額な旅費への補助に使われたことが分かります。

医療費の窓口負担が2倍に！

後期高齢者医療の被保険者全体（約1,800万人）の約20%

会長 石川 博

私は、数年前から腰痛で定期的に医療機関を受診しています。11月に入り、いつもの様に簡単な診察を終えて会計をすると300円でした。また、薬局では1,560円支払いました。前回（8月）まで、病院の会計は検査・処置無しの場合は150円、薬局でも1,000円を超えたことはありませんでした。今回の病院と薬局の領収書には「負担割合20%」とあります。「窓口負担割合2割」が始まった（10月から）ことを実感しました。

対象となるのは、75歳以上の方で一定以上の所得（課税所得が28万円以上かつ「年金収入+その他の合計所得金額」が単身世帯の場合200万円以上、複数世帯の場合合計320万円以上）がある方です。これらの金額は2020年12月に当時の菅首相と公明党の山口代表が与党内で決めたもので

(自民党案 170 万円、公明党案 240 万円から「200 万円」とした)、半年後に通常国会の終盤で法律として成立しました。

窓口負担割合が 2 割となる方には、2022 (R4) 年 10 月 1 日から 2025 (R7) 年 9 月 30 日までの間は、外来医療の窓口負担割合の引き上げに伴う 1 か月の負担増加額を 3,000 円までに抑えるという配慮措置があります。同一の医療機関での受診については、上限額以上窓口で支払わなくてよい取扱いとなり、そうでない場合は、1 か月の負担増を 3,000 円までに抑えるための差額を後日高額医療費として払い戻します。「払い戻し先の口座の事前登録をお願いする」として、該当者に「高額医療費事前申請のご案内」が埼玉県後期高齢者医療広域連合から郵送されました(9 月下旬)。必要事項を記入した請求書等を **11 月 30 日までにポストに投函することになっていますがお済みでしょうか?**(期限後はお住まいの担当窓口へ)。

今年も 7 月に新しい被保険者証(茶色)が郵送されましたが、有効期限は今年の 9 月 30 日でした。この時、「後期高齢者医療制度に関するお知らせ」というビラ(A4 で 1 ページ)と「後期高齢者医療制度のてびき」という小冊子(22 ページ)が同封されていました。また、9 月にも再び新しい被保険者証(ピンク色、有効期限は令和 5 年 7 月 31 日)が郵送され、この時に同封されていたビラ(A4 で 4 ページ)には「見直しに関する問い合わせ先」、「見直しの背景」、「窓口負担割合 2 割の対象となるかどうか(判定)」、「配慮措置」、「口座登録」が記されていました。これらの資料に細かく目を通された方はどのくらいいるのでしょうか?

今回の原稿は最近の経過を確認しただけのものです。退職者連合、地方公務員退職者協議会、日退教は全国組織としてどの様に取り組んできたか、また、全世代型社会保障のあり方が課題とされる中でどのように取り組もうとしているかについては、稿を改めたいと思います。

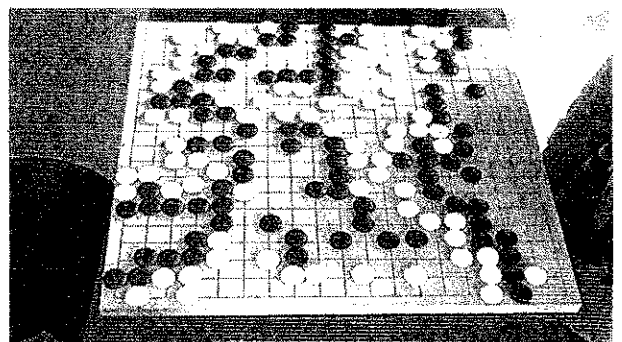
諸 活 動 報 告

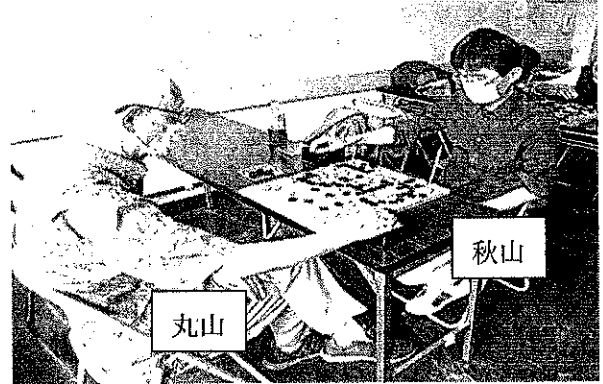
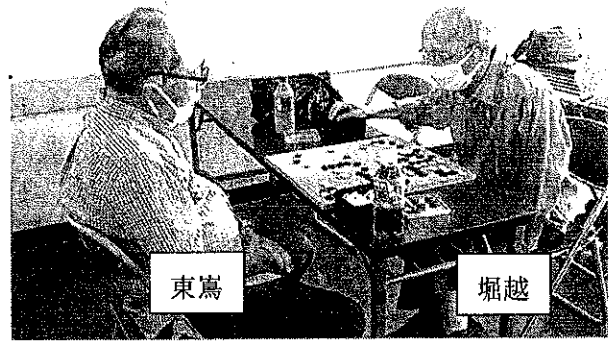
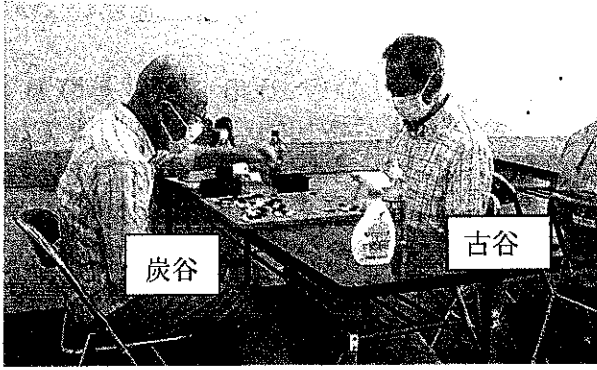
埼玉退教 囲碁ダービー 第 3 回『沖松杯』開催



今も続くコロナ禍の中の 10 月 4 日、熊谷市中央公民館において、主催者が本年 1 月に逝去されましたが、その意思を絶やすまいと第 3 回『沖松杯』埼玉退教単独の囲碁大会が最年長 86 歳の S 氏を先頭に 10 名の参加で行われました。A クラス(2 段以上)、B クラス(初段以下)に分け、午前 10 時に対局がスタート。途中、熊谷の「うな重」で英気を養い、午後 3 時半まで、28 局の熱戦が繰り広げられました。いづれも、早碁でなく「熟」碁そのものでした。人を寄せ付けない、普段見せない、真剣そのものの雰囲気

の下、真剣勝負が展開されました。結果は、A クラスでは、優勝 小野田 均氏、準優勝 堀越 正氏 B クラス優勝は、秋山 博史氏、準優勝は丸山 道雄氏でした。高校支部が中心の大会でしたが、来年は入間、比企支部等各支部の皆さんも参戦するよう要請します。





安倍国葬強行の愚策が芽吹かせるもの

高校支部 立野隆一

9月27日安倍晋三元首相の国葬が反対が多数の国民の声を無視して、16億6000万円（政府発表）以上の巨費をかけて日本武道館で執り行われた。2万人の一般参列者と1.5万人の国会前での国葬反対集会の様子が報道された。一方、私たち退教を含

む国葬反対の集会が国会前で1万五千人規模で行われた。私自身は、昨年未から体調不良の上に8月にコロナに罹患し、反対集会が催されていたことを知りつつも参加できずに忸怩たる思いで報道を観ていた。9/27集会は、国葬当日に、どうして誰も

いない国会前なのかとすっきりしない気持ちもあった。しかし、人混みをかき分けてやや遅れて仲間と合流するとそんな迷いは吹き飛び、久々にシュプレヒコールを大声で浴びせていた。

9月のマスメディアによる国葬賛否のアンケート結果は、メディア全社で「反対」が多数を占めた。中でも、FNN（フジサンケイグループ）の結果には、賛成31.5%、反対62.3%と倍近い反対の数値が示された。内閣支持率についても、支持2.3%、不支持50%の結果となった。国葬終了後も安倍元首相の国葬実施については、「良かったと思う」が41%、「思わない」が54%（読売新聞）で、評価が好転すること



高校支部 橋本（左）笹（右）

はなかった。国葬は国民世論の分断どころではなく、無視ともいえる愚挙であったことを示している。

7.8 安倍氏銃撃事件の衝撃

速報が携帯に飛び込んできたとき、まだ意識不明の重体の報道だった。その後TVで心臓マッサージの映像が映し出された。まさか銃弾が撃ち込まれて出血している心臓をマッサージするとは考えられなかったので致命傷は避けられているのだと私なり

に予想した。しかし、17時過ぎに死亡が確認され、日本国内においては近年にない衝撃的な事件として国内外に報じられた。翌日からメディアは、一斉に奈良の現場で献花の山や死を悼む市民を映し出し、民主主義の破壊者として山上容疑者の残忍性、屈折し退廃した生活ぶりを伝えた。おそらく政府・自民党は、この時点では参院選への国民の支持を確実に上げられる、選挙勝利の暁には、国葬をやるなど一気に安定的な岸田政権に持っていける、という構想を描いたと推測される。

しかし、数日後、山上容疑者の暗殺の動機が発表されると事態は一変した。安倍氏銃撃は、旧統一教会によって洗脳された母親の莫大な献金で家庭を破壊されたことへの復讐なのであり、その理由を掘り起こせば安倍氏・自民党と教会との密な関係が浮き彫りになっていった。メディアは、これ以降、旧統一教会の実態と自民党議員の関係を掘り起こしていった。前代未聞の国葬を掲げてしまった岸田首相には、「聞く力」を自民党・支援者だけに傾け、中止を発する決断はあり得なかったのだろう。

安倍元首相の功罪

自民党のいうところの功は、「戦後レジームの解体」を目指した2期8年8か月は憲政史上最長の政権となったこと、6度の国政選挙の勝利、米口首脳や各国の首脳との親交など外交の成果、教育基本法の改変、安保関連法の制定、沖縄辺野古への米軍基地移転、野党からの臨時国会開催要求の無視してスムーズな国会運営、アベノミクスの実施、あたりか。また、「美しい国・日本」を前提として、立憲主義や個人の尊重を否定する自民党憲法草案を提示し、従軍慰安婦、南京大虐殺などの歴史用

語を教科書から消し去った。

「美しい国」は語感として日本人、とりわけ若者に心地よさを漠然と与えたと思われる。

罪は、枚挙に暇がないが、端的には上述の功の裏返しといえる。先ずは、戦後レジームの捉え方の問題がある。軍国主義の戦前に代わって民主主義と反戦平和を国家体制に組み込んだ憲法と教育基本法の下、戦後政治は稼働した。しかし、この国の民主主義も平和主義も旧制度との軋轢の中でもがき苦しみつつ未熟な形で今日に至っている。そのような歴史認識を安倍氏は無視して、70年余りの時間の経過で国内外の社会情勢の変化に対応していないと断定。そして声高に現行憲法を「みっともない憲法」と蔑んだ。そんな乱暴な理由で草案を発表した。

そして、日本の歴史や伝統文化を都合良く切り取って「美しい国・日本」をでっち上げる。その中へ家父長制と良妻賢母の徳目に基づく家族団欒や礼儀を尊重する和やかで安定した家庭・社会のイメージを描き、年功序列・封建的上下関係の道徳観を忍び込ませ、天皇制の国家観を無理なく自然に注入しようという意図した。つまり、戦後の民主主義と平和主義を捨てて、戦前の脚色美化された制度に回帰するということだろう。その手始めが教育基本法の改悪であり、目指すのは自民党憲法草案の示すところといえる。

教育基本法の改変と自民党憲法草案

改めて2006年の教育基本法の改悪の問題点を要約すると、政府による教育内容への介入の是認、愛国心教育、家族の尊重（家庭教育の重視）などだ。1947年版教基法の第10条「教育は、不当な支配に服



丸山 副会長

することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われるべきものである」波線を削除し、「この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものであり、」の文言と入れ替えて、戦前の反省に立った教育の権力からの独立を否定し、教育行政の自由な介入が可能になるよう改変した。つまり、政府・文科省がどのような恣意的な行政をやっても、「不当な支配」にはならないという意味だ。次に、愛国心は、「（教育の目標）第二条 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、」と明記され、教育現場や世論が声を潜めれば、内心の自由がいつ奪われても仕方がない状況にある。そして、2006年版第十条 家庭教育では、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する…」としたうえで「保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策」を講ずるとし、単なる資金や制度の教育条件整備にとどまらず家庭内への国家的意図の浸透を可能ならしめている。

自民党憲法草案2012年発表では、前文は全て書換え、①天皇は元首、国旗・国歌の規定、②自衛権の明記・国防軍の保持、

③家族の尊重、④環境保全の責務、⑤財政の健全性の確保、⑥緊急事態の宣言の新設、⑦憲法改正提案要件の緩和、などと党HPにある。しかし、草案の条文を読むと、以下の矛盾や問題性に誰もが気付くはずだ。まず、天皇を元首に位置づけた上、憲法草案は、自由・権利の代償として義務を果たすことを求め、国家が「国民を縛る鎖」であるかのように記している。本来、立憲政治とは、憲法は誰もが持っている人権を守るために「権力を縛る鎖」という根本的理解を無視している。次に自衛隊の明記と国防軍の保持がもたらすものは、集団的自衛権を行使するために軍事同盟を結んで従来の平和主義を廃するということだ。世界平和のために武力行使以外の平和的手段で臨むという名誉ある地位を占めることは困難となり、世界中の戦争に参加することにもなる。そして、日本の憲法改正手続は、世界の憲法改正手続の中で、「とても厳しい」ものではない。多数派が安易に憲法を改正し、少数派の権利を侵害したり、国民一般が大切にす価値や重要な利益が時々の権力者によって損なわれたりしないよう改正に慎重さを求め要件を厳しくしている。この「智慧」は、世界の多くの国が採用している。

つまり、この自民党改憲草案は、世界の民主主義国家でいう「憲法」ではない。いわば安倍政権とその取り巻きの団体の合意によって作成された彼らの「思い」をまとめたに過ぎない。とはいえ、この政権が憲政史上最長となり、安保関連法を可決し、安倍氏の国葬まで実施されてしまった現実をこの国の実態として受け入れざるを得ない。また、安倍元首相と関係の深かった日本会議や旧統一教会の意図が織り込まれているように読める。戦前の「美しい国」に

するためにはまず教育という外堀から脚色し、憲法草案という「思い」を打ち上げるというセオリー通りの攻め口である。そして、国葬について多くの若者が声をあげなかったのは、この教育の成果だとは認めたくない、が、否定もしがたい。

これを機に国民の目覚めに期待

外交の成果がほとんどなかったこと、アベノミクスは円安の混乱を残しただけの失策だったことは現時点で確認できる。また、モリ・カケ・サクラの利益供与疑惑やオリンピック・パラリンピック関連汚職などのスキャンダル。極めつけは旧統一教会との自民党をあげてのズブズブの癒着が銃撃事件によって明らかになりつつある。自民党との選挙協力を通じての政策協定、山際前経済再生担当相の辞任などまだまだ出て



きそうだ。

2020年9月、安倍氏退陣の報道の翌日、ある高校の廊下を授業へ向かうために歩いていると前を行く3年生女子が「とてもショックだったよね。お父さんみたいな人だったから」と隣の友人に話しかけていた。二人は教室へと消えたが、その会話を生徒が残像として今でもふと甦る。8年8か月政権に居座り、「美しい国」を嘘118回とともに語り続けた効果なのかと認めざるを得ない。ヒトラーの『マイン・カ

ンプ』の中に「嘘も百回つけば真実になる」「嘘をつくなら大きな嘘をつけ」「大衆はすぐ忘れる」という有名な言葉があったのを思い出す。

とはいえ、今回の国葬強行を多数の国民が反対したのは、「安倍政治は結局、何も成果を残していない」「汚職とカルト教団にまみれた政権運営だった」「もう騙されない」と気付いたからだろう。とにかく選挙に強かった、党内最大派閥の領袖だった安倍氏の力の恩恵に与ろうとしている岸田政権は、安倍政治がいかに腐敗し、空虚で

時代錯誤であったかを正視できない。一方、国民の多数は、現政権が軌道修正できずに安倍政治の延長にあることも見抜いている。それを示すのが、岸田内閣不支持 50%、支持 40%、国葬実施「評価せず」 59%の数値（10/3 朝日）だ。

安倍政権の罪を暴き、政治・経済・倫理観の軌道修正が急がれる。今後の国会での徹底的な追求が進むこと、それを後押しする世論の高まりを祈って止まない。

日退教 岩手の旅 震災フィールドワークに参加して

2022.10 児玉支部 高橋 衛

9月19日、「さよなら原発」集会在代々木公園で行われ、久しぶりに東京の街を行進した。参加した多くの人の意見が届くことなく政府は、原発を再稼働しようとしている。今でも全国各地の地震のニュースがTVのテロップで流れ、そのたびに心配する。地震、津波、原発の怖さを忘れ、燃料高に困るからと再稼働を進める。地震大国とわかっているのだから、どうしてもっと早く強く自然エネルギーにシフトしなかったのか、悔やまれる。先を見越す力が政府にないのではなかとさえ思えてくる。

今回、参加させていただいたのは、釜石市へ行きたい気持ちがあったからだ。数年前に結婚した、東京に住む娘の婿で義理の息子である彼が釜石の出身。子供の頃の話聞き自然豊かな街へ一度は行ってみたいと思っていたからである。実家は津波にあい、今は更地にして、新たに土盛りをしてかさ上げされているそうだ。震災の当日、たまたま彼の両親は日帰りの温泉へ行き、そこで地震にあい助かり、今は釜石を離れ、同じ県内に住んでいる。震災のときは、東京と岩手の電話連絡が数日間も繋がらず大変心配したそうで、繋がったときは奇跡のように驚き安堵したそうだ。ただ、親戚、友人を亡くされショックは大きかったようで、私とお会いした時もその話をされていた。

フィールドワークの内容ですが、盛岡駅に集合、岩手教組の方と合流し用意していたバスで釜石市へ向う。参加は23名、遠くは徳島、兵庫、富山県から、また、すでに数度目の方もおり、このフィールドワークの関心の高さを知った。

バスの中では震災の語り部の方による震災当時の説明と、震災直前のあの大きな揺れをTVで見た。今



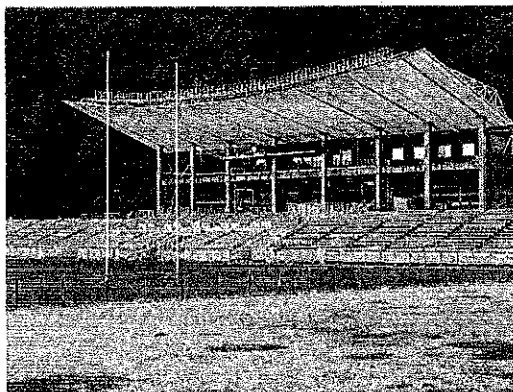
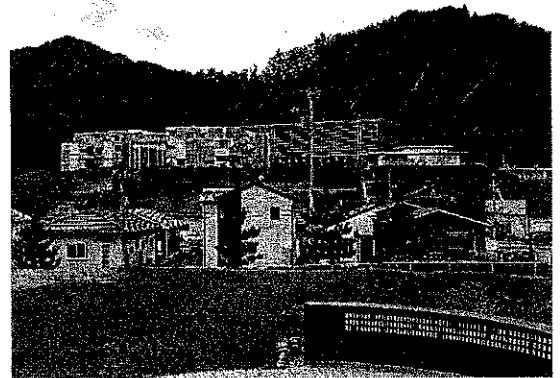
更ながら凄かった映像がながれ、パソコンで頭を覆って地震の収まるのを待っていた市役所の職員映像は、同じような行動していた自分を思い出した。揺れを感じた人の多くは、あの日、自分は何処にいて何をしていたか、どんな行動をとっていたのか、覚えているに違いない。しかし、11年も経つと、忘れてしまっていることも多く、今ではユーチューブ等で当時の様子が発信されている。時々は見ても振り返ることも大切なことかもしれない。

語り部の方の話では復興は進んでいるが人の気持ちが以前とはまったく違っているようだ。今でも海に行きたがらない人がいたり、あえて思い出さないようにしたりとさまざまなようである。家に残されたおばあちゃんを助けに、家へ戻ろうとした少年の話聞いたときには辛い気持ちになった。戻るのを止めた人、助かった少年、そして亡くなった祖母、悔やんでいる少年の話は、経験しなくてもよい経験のはずである。

バスをおり最初に行ったのは復興支援の拠点となった遠野の道の駅。当時は復興にあたった多くの自衛官、ボランティアの方がいたところである。そんな自衛隊の方の活動を見て、自分の進路を考えた子供たちもいたようだと話していた。いまでもその時に出してもらった小さなおにぎりが忘れられないという人も多くいるようだ。

あの日の夕方にTVに流れた三陸地方の津波被害は日本中の人を驚かせた。私も衝撃的だった。釜石市だけで1060名を超える尊い命を奪っている。二度と同じ悲劇を繰り返さないよう、この震災から学んだ教訓を伝えるため建てられた、追悼の場・釜石折りのパークへ行き我々も追悼し説明をうけた。また、整備されたパークには津波が来たときの高さを知る碑と犠牲者の芳名版が設置されていた。ここでは安全だからと旧防災センターに飛び込んだが、津波が押し寄せ亡くなった住民もいたという。中学生が高台へ向かう姿を見て助かった住民も多くいたようだ。新しくなった鶴住居地区の防災センターでは、当日の出来事を忠実に伝えるために多くの子供たちの命を救った「防災教育の取り組み」を紹介していた。釜石東中の数

<高台に新しく建てられ鶴住居小学校と釜石東中学校、右下には犠牲者の芳名版>



人の中学生の行動が小学生の命を救った実践は「揺れたらただちに高台へ向かう、一度避難した場所からさらなる高台を目指して避難する」という行動が実を結んだもので、当日犠牲になった数人は学校を休んでいた子供だったようだ。今は震災後、高台にある避難所まで駆け上がる「韋駄天競争」の行事があるという。また、このパークの近くには復旧した三陸鉄道の鶴住居の駅があり、怪傑ゾロリのキャラクターをあしらった電車が我々の

前を元気よく走っていた。また、防災教育のために資料展示と防災学習室、地域交流などのスペースがある「いのちをつなぐ未来館」等が建てられて震災の伝承を、しっかりと未来へとつないでいた。震災当日の多くの写真や映像を見ることができ、学校での防災教育の大切さを知ることができた。三陸線路の向こう側には、ワールドカップでフィジー対ウルグアイ戦が行われた釜石鶴住居復興スタジアムがある。応援で大漁旗がはためいた場所である。今では野外コンサート等でも使われているようで、釜石のシンボルである。これからも多くの人を魅了させることとなるのだろう。

釜石市の中心街へ行き、ここまで津波が来たという市役所の建物に記録されているラインの高さに皆が驚く。津波の高さをここでも知った。多くの人がまさか、ここまで津波が来るなんて想像できなかったこともうなずける。中心地は高いビルもあり、海側を見渡すことはできない。ここで暮らしていると、海との距離も忘れまいがちなのかもしれない。まさか津波がここまでを上げて来るなんて想像もできなかったと思う。海が近いのに海が見えないというのはリスクだとも言っていた。これは次に行った宮古市の田老防潮堤でも感じたことだ。



旧田老防潮堤の上で

釜石から三陸海岸を北上し宮古へ向かいながら、それぞれの地域の特徴と現状、それからそこに住む人たちの震災後の思いを話してくれた。新しく建てられた住宅と草が生えたままの地所が混在している。草地は住居があった場所なのだ。また、高台移転などで非住居地域になってしまった場所もあった。高台より、低い場所だが利便性を重視し、復興した三陸鉄道の駅に近い場所を選んだ人もいたようだ。住居につ



<伝承施設・たろう観光ホテル>

いての選択は、人それぞれ条件が違うようだ。おそらく心の葛藤もあったに違いない。以前の写真とは違う町の姿がそこにはあった。宮古市の田老地区の田老防潮堤は明治、昭和の津波の経験から建てられた高さ10mの有名なものである。その上に立って説明を聞くと以前の様子と今がよくわかる。新しい防潮堤はさらに高く、いくつもの防潮堤に囲まれていた。高い場所に行かなければ海は見えない。海が見えなかったために逃げ遅れた人もいたという映像を、震災伝承施設として保存されたたろう観光ホテルの5

階で見た。津波が来た瞬間をホテルの人が5階で撮影したものだ。防潮堤を乗り越えようとしている津波の前を消防車が走っていた。その後わずか10秒足らずでこのホテルまで津波は到達。町全体を覆うことに。消防の方は亡くなっている。今では多くの人がこの施設を訪れ学んで帰る。防災の大切を来た人に教えている。また、「てんでんこ」と言われる伝承の大切も知ることになった。このフィールドワークを毎年計画されている岩手教組の方には今回大変お世話になりました。

第33回 埼玉教育教研集会 報告

1

児玉支部 丸山道雄

沖縄（ウチナンチュウ）の声が聞こえますか！

はじめに

☆2016年の夏、埼玉教組児玉支部（役員）と退教児玉支部の仲間と6人で、沖縄慰霊の旅に出かけました。

☆ひめゆり記念館、平和資料館、うるま市で女性会社員（20才）が元海兵隊員に暴行・死体遺棄された現場、海軍壕・ガマ、キャンプシュワブ、辺野古・大浦湾など、沖縄高退教の喜友名さんの丁寧なガイドを受け、貴重な「戦時体験」と沖縄の今を知る旅となりました。

☆私にとって、日退教の沖縄連帯派遣団、埼玉平和運動センターの呼びかけでの沖縄平和行進、そして何より、叔父（22才・軍人）が伊江島で住民とともに「玉砕」した慰霊の旅でもあり、平和の礎への刻銘を沖縄県庁へ申請する旅でもありました。若い教組の仲間、退教との2泊3日の充実した旅になりました。

A 教研集会では、パワーポイントで作成した資料で、映像を追って説明。

B 沖縄について質問します。

(1) 沖縄の基地（普天間）を辺野古でなく、本土に移転するのが打開策、と考える有名人が少なからずおります。あなたの意見は？

(2) 沖縄の米軍基地で生起している痛ましい人権問題を解決するために、日米安保条約にかかわって、「日米地位協定」を改訂するべきと全国知事会が提言しています。知っていましたか。政府・自民党（公明含む）は、取り上げようとしません。何故だと思いませんか。あなたの意見は？

(3) この9月の沖縄知事選で玉城氏が再選されました。“辺野古新基地建設反対の民意は、1ミリも変わってない”、と勝利宣言。岸田自民党政府は無視し、埋立て作業を強行し続けています。ヤマトンチュウの一人として、あなたは どう 思いますか。

「➡誠に残念なニュースですが、那覇市長選で玉城知事が支援する候補が落選、2022年の県内市長選で7連敗だそうです。県内11市のうち宮古島のみがオール沖縄系、“玉城支持基盤の弱体化は顕著”、との新聞報道に衝撃を受けました。（10.25）」

(4) 最後の質問です。過去において、沖縄現地で何度も大規模な抗議集会が開催されてきました。その中で、最もウチナンチュウの心を痛めつけたのは、何だと思いませんか。次の中から、二つ選んで下さい。

●集団自決で軍の強制はなかった。いわゆる教科書記述の改ざん。

●北部・高江村へのオスプレイ配備

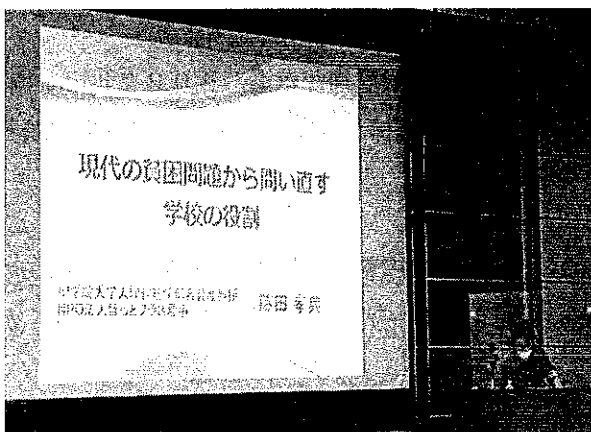
- 辺野古新基地建設（本土から派遣された機動隊員の差別発言（土人））
- 普天間基地墜落事故 民主党政権でも移転ならず押しつぶされた！
- 婦女子の強姦・殺害事件
- 基地公害（土壌・地下水汚染など）
- 悪魔の島と呼ばれたこと（ベトナム・中東への米軍出撃基地）
- 首里城の火災消失（琉球王朝以来の沖縄ウチナンチュウのシンボル）
- 自衛隊のミサイル配備（石垣・宮古）

C 沖縄問題で欠かせないのは、国際情勢であり、岸田政権の動きです。

- 世界情勢について 米ソ対立から米中対立へ 極東における要石
- 岸田政権がやろうとしていること 中・露に対抗、軍事大国化（世界第三位）アメリカから最新兵器の爆買いで誰が潤う！ 沖縄のミサイル基地化。

D まとめ

- ①プーチン・ロシアによるウクライナ侵攻と北朝鮮のミサイル開発を口実に、一触即発の戦闘モードがアジア極東の“台湾”に移っています。米軍と共に、日本軍（自衛隊）が先制攻撃できる軍事システムを構築しています。（埼玉新聞 「安保関連3文書」 別紙参照）
- ②今、問題となっている自民党と旧統一教会との黒い癒着；黒い闇（アメリカとの関係）が脈々と岸信介—安倍晋太郎—安倍晋三と受け継がれ、戦後レジームの破壊を、誰が、どのように形成してきたか、今暴かれています。戦後一貫して、日米安全保障条約は日本国憲法の上に置かれています。日米グローバル同盟 いまや、“アジア版NATOづくり”とも。
- ③しわよせの一切を沖縄に押しつけ、痛めつけています。東西対立を背景に、歴史的にも米ソ・米中の最前線に置かれ犠牲を強いられているのです。日本列島はアメリカにとって不沈空母！そして、沖縄全諸島がミサイル基地化された。住民は避難できる？ 軍は民を守らない！！
- ④「このままでは、日本（沖縄）は対中国戦の最前線になる」（『週金』 堅田文彦 9. 2）
私たち・ヤマトンチュウは、国民（人民大衆）に、耳を傾けない、“新しい資本主義”を押し出す岸田・自民党政権のどす黒い野望を見抜く必要があります。（完）



第33回 埼玉教育教研集会 報告 ②

教研レポート「部活動の地域移行について考える」

入間支部 南雲 武雄

(1) 学習指導要領における部活動の位置づけ

文科省は2008/2009年改訂の学習指導要領ではじめて「部活動」に言及した。



「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、……」

とさりりと滑り込ませるように、短く言及している。定義も目標もないのは、教育課程外だから当然ではある。しかし、一方で「教育課程と関連が図られるように」とも書かれ、部活動が矛盾を孕んだいびつな位置づけであることは放置され、この記述は現行の学習指導要領にも引き継がれている。

(2) 「自主的・自発的な参加」ということ

学習指導要領において、部活動は「生徒の自主的、自発的な参加による」とされているが、それはどういう意味に考えればいいのか。そのヒントは1951年の学習指導要領(試案)にある。戦後新教育の子ども中心主義の精神を体現して、クラブ活動について例えばこう書かれている。「教師は指導者となって働いてもよいが、生徒の意見を重んじなければならない。」「余暇の活用はクラブ活動の重要な目標の一つ」等々。

この精神は地下水脈のように今も意義をもち、文科省も(タテマエは)引き継いでいるとみるべきだろう。部活動は入っても入らなくても自由というだけではなく、その運営もまた、生徒の「自主性・自発性」に大きく委ねるものなのだ。余暇活用を重要な目標として。

(3) 地域移行—文科省のプラン

文科省は、2020年9月、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」という文書を出した。いくつかの地域・学校での試行を経て、2022年7月「運動部活動の地域移行について」(スポーツ庁)、8月「文化部活動の地域移行について」(文化庁)が提言された。文書の要旨は以下のとおり。

- まずは、休日の部活動から段階的に地域移行していく。平日は、できるところから。
- 目標時期：令和5年(2023年)度の開始から3年後の令和7年(2025年)度末を目途に。
- 公立中学校が対象。高校や私立・国立の中学も取り組むことが望ましい。

(4) 経産省の考えていること

経産省に置かれた「地域×スポーツクラブ産業研究会」は数年間の検討を重ね、2022年9月28日、最終提言として「未来のブカツ」ビジョンを発表した。それは、曖昧さののこる文科省の姿勢と比べて、より明確に、より大胆に踏み込んだものとなっている。

学習指導要領から部活動への言及を削除し、完全に学校から切り離れた位置づけにせよ、というのである。総論としては望ましい方向を示しているとしても、気になる問題がないわけではない。

最も気になるのは、「ブカツ」の市場化である。

研究会は、課題の一つに「採算性」を挙げている。つまり、「ブカツ」を営利として運営できるようにせよという姿勢である。それに関係する記述を一部とりだしてみる。

△「学校部活動の地域移行」が本格化し、「サービス業としての地域スポーツクラブ」がその受け皿を担い、スポーツ環境のクオリティが向上する場合、受益者負担の増加は不可避。

△財源創出手段として、①②（略） ③スポーツ振興くじの更なる活用

経産省にとっては、ビジネスとしての「ブカツ」を構想するという発想が基本にあるのだ。そこで、ある程度の受益者負担は当然という考え方に立つ。やりたくてもできない子どもが増えることは間違いない。さらに、派生事業収入や公的補助を得て、営利事業として持続可能になるようにしようという。そのため、規制を外したり、スポーツくじを拡充したりということを提言している。スポーツ賭博の問題をスルーしてしまっているのだろうか。

そもそも「サービス業としての地域スポーツクラブ」という位置づけからすると、部活動をする子どもはお金を払ってサービスを受ける「消費者」という存在になる。それでいいのだろうか。

(5) 考えるべき問題

教員の過重労働を考えた時、少なくとも、望まない教員は部活動をもたなくていいということは認めてもらいたいものである。文科省も「必ずしも教師が担う必要のない業務」と言っているように、顧問をすることに法的根拠はないのだから。そして、それを現実化するための一歩として、「土日の部活動の地域移行」を歓迎したい。そして、経産省の言うように、完全移行を早く明確に打ち出してもらいたい。

しかし、一方、子どもや保護者の立場からみると、地域移行に心配はある。

部活動も市場化するのかという問題である。受益者負担の考え方、営利事業としての「ブカツ」、スポーツ賭博などを容認できるのかということを考えなければならない。それは、子どもたちのスポーツや文化活動への参加のあり方を歪めてしまわないか。

その際、参照したいのが、学習指導要領の言う「自主的・自発的参加」ということである。スポーツや文化活動への参加は人権の一つである。子どもたちが、自主的・自発的に運営や活動内容に参画しながらスポーツや文化活動に関われる機会は大事にしたいと思うのである。地域スポーツクラブに任せれば、より効果的な指導を受け、技能はより向上するかもしれない。しかし、それだけでいいのか。指導を受けるだけ、サービスを消費するだけの場になってしまっているのか。効率は悪くても、仲間と試行錯誤しながら自分たちでつくっていく部活動というものも、本来の姿として目指していくべきではないのか。

矛盾したことを言っているのだろうか。そうかもしれない。部活動を完全に学校から切り離せといいながら、教育的価値は残せと言っているのだから。

戦争を語り継ぐ

父親の戦場 VI

高校支部 山田正美

八月一五日の絶食

今年もまた終戦の日が来た。思い出すのは父は毎年八月一五日が来ると、丸一日絶食していたことだ。戦死した仲間たちを弔う意味もあっただろうし、戦争を忘れないための行為でもあっただろう。私たち子どもたちにも「食べるものがなく、飢え死に寸前だった」「トカゲ、カタツムリまで食べたものだ」といった話を何度かしたものだ。

父は半ば自嘲気味にこんな話をしていた。「フィリピンに行く前、上官から“南洋では食料の心配はない、果物はたくさん実っていて取り放題、銃で獣や鳥を撃てば肉がいくらでも手に入るのだ”、と聞かされていたんだよ」父が内地で聞かされていた「南洋」の暮らしは子供だましであった。

父にとって戦争とは米軍との戦闘だけを意味したのではなく、飢えと病魔との闘いを意味したのだ。「コンバット」などのテレビドラマや戦争映画を見ていた私たち子どもにとって、戦争と「飢餓」は結び付かなかったから、父の「絶食」という行為の意味は理解できなかったと思うのだ。また父もそ

うした行為を子どもたちに声高に言うでもなく、一日静かに過ごしていただけであった。先に紹介した作家の村上春樹も父親が毎朝読経を欠かさなかったことを記している。そして村上の父親も読経が何のためなのか、息子には話さなかったのである。

飢餓と病魔のジャングル彷徨

父、山田敏光の第二三機関砲中隊は一九四五年六月五日に撤退をはじめ、ダバオ川をさかのぼって奥地へ奥地へと「転進」していった。それは落ち延びていく、といった方が適切だっただろう。六月末頃には米軍との戦闘もなくなった。米軍そのものが追撃してこなくなったのだ。米軍も日本兵の掃討をする必要もなかった。ダバオ地区の日本軍自体が戦闘能力を失っていたからだ。中隊は分隊ごとに分かれ、最終地点の「ベルタ高地」を目指しダバオ川をひたすらさかのぼっていったが、七月一六日頃、ようやく中隊合流地点で終結することができた。この時点でほとんどのものが栄養失調で、マラリヤに感染し、重病人も十名以

上を数えた。食物といえば「マイス」という豆の粉末を溶かした汁、芋のような茎を入れた塩汁などでどうしても食糧の確保が必要であった。

山中で食料はどのようなものがあっただろうか。その時点で1万近い日本兵、在留邦人はダバオ市周辺から密林地帯へ逃げ込んでいる。めぼしい畑はすっかり荒らされて、もうほとんど残っていなかった。蛇すら取りつくされて目にしなかったというからすさまじい。運が良ければ山中で原住民「バゴボ」が耕した畑の陸稲を発見できた。バゴボは「火田民」ともいわれ斧で密林を切り開き、焼き畑を行って稲や芋を作っている。彼らの畑を刈り取ってしまうのだ。しかしこれは危険である。当然、作物を略奪されたバゴボは日本人を敵視している。事実、偵察に出かけた指揮班の村山軍曹達二名が行方不明になった。

隊では毒矢を使うバゴボに殺されたのではないかという噂が広がったが確証もない。二日間捜索が行われたが結局二人は戻らなかった。

食料を得るため猿や鳥を小銃で狙ってもまるで弾は当たらなかったという。また手榴弾を川に投げ込んで浮いてきた魚を捕まえるという方法も行われていた。しかしこれも危険で負傷するものが出て、自然に行

われなくなった。トカゲは倒木の影から小道に出てくるやつを捕まえる。二時間ほどでせいぜい7~8匹程度。これを黒焼きにする。カタツムリは落葉の深い斜面、じめじめした谷間にたくさんいる。半日で飯盒二杯ほどになる。アンパンくらい大きいやつもいたという。

マラリヤとアメーバ赤痢

殆どの隊員がマラリヤに罹っていた。医薬品もなく栄養失調も加わり隊員たちは一人また一人と死んでいった。震えと発熱が繰り返すのがマラリヤの典型的な症状だ。しかし不思議なことに何の医薬品もないのに治癒する者とそのまま衰弱して死ぬものに分かれていった。マラリヤが治癒してもアメーバ赤痢が追撃する。粘血便を一日に十数回繰り返す。こうして次々と隊員は死んでいった。

中隊は「転進」目的地点の「ベルタ高地」に到達した。七月一九日のことである。陣地構築が命令であったが、病人だらけでとても動けない。もはや中隊の体を成していなかったといった方がいいだろう。そしてこのベルタ高地で第二三機関砲中隊は八月一五日を迎えるのである。

地域からの戦争伝承

春岡村（さいたま市見沼区）

【戦争の記憶 その1】

近辺と「大東亜」戦争

ここに昭和16年12月9日付けの新聞があります。春岡村丸ヶ崎新田の農家の蔵から出てきたものです。12月8日前後の新聞のスクラップの表紙には「大東亜戦争」と墨で黒々と書かれていました（第二次世界大戦のことを当時こう呼んでいました）。12月9日付けの夕刊が実際には8日発行で、新聞が各家庭に届いた順番は9日の夕刊が先で、見出しは「暴戾米英に対して宣戦布告 畏し大詔渙發 詔書」です。高村光太郎の「危急の日に」という詩も載っています。翌9日朝刊は「早くも挙がる此戦果此凱歌 戦艦二隻空母艦一隻撃沈 ハワイ沖で日本海戦」

春岡小学校の100周年記念誌に載っていた戦争中の思い出でを少し紹介します。学校の校庭の西のすみには浅い溝が掘りめぐらされていました。空襲警報が鳴ると授業を中断して防空頭巾をかぶりそこに飛び込み、目と耳をおおいました。登下校の際は防空頭巾をかぶり、裸足や下駄で学校に行きました。というのも、ありとあらゆる物資が不足して、はき物のズックも配給制でほとんど手に入らなかったからです。そのため昇降口の近くに足洗い場があり、わずかな水の中をピチャピチャと歩いて「すのこ」の上にあがりました。各クラスに何人か疎開してきた児童がいて、「言葉が違う、遊びが違う、食べ物が違う」といろいろ言われて学校でも放課後でもずいぶんいじめられていました。春岡村では直接戦争の被害はありませんでしたが、見沼区役所の近くの家や岩槻の河合小学校の前の野原に日本やアメリカの軍用機が墜落しています。次回そのことを紹介します。



【戦争の記憶 その2】

《見沼区堀崎の民家に日本の戦闘機が墜落》

戦争末期の昭和20年4月12日、15機のB29が埼玉に襲来しました。春里中学校近くの松本氏（昭和2年生まれ当時18歳）は自宅の縁側で昼寝をしていましたが、寝ている所の20cm近くに落とされた焼夷弾のドーンという衝撃で縁側から庭に転がり落ちてしまいました。B29を迎え撃った日本の戦闘機が見沼区役所の近く、堀崎の飯島家に墜落したのです。空中戦でやられた日本軍の戦闘機は火だるまとなって落下し、飯島家の母屋などが全焼しました。大和田駅近くの柳沢さん（昭和7年生まれ 当時国民学校の六年生）は現場に見に行きましたが、時限爆弾が積んである、と言うのであわてて家に逃げ帰ったそうです。

B29はそのまま太平洋上へ飛んでいきましたが、その際、片柳村東新井の畑に1発、御蔵へ3発の1トン爆弾を投下していきました。御蔵に投下されたうちの1発が爆発し、防空壕にいた子供3人が犠牲となりました。その後、昭和51年に不発弾3発を掘り出しましたが、それには白いペンキでこんなことが書かれていました。

IF YOU`VE HEARD THIS ONE,
IT`LL KILL YOU.

(訳：爆弾の音を聞いたら最後、おだぶつだぞ)

(この日、大宮、浦和、北足立郡、入間郡に空襲があり、死者36名、翌13日にも川口、大宮、蕨に空襲があり死者12名)

(参考『大宮市史4』)

*春野図書館で昭和16年12月8日開戦前後の讀賣新聞の実物を展示しています。

【戦争の記憶 その3】

《綾瀬川の向こう側、河合小学校の前に米軍機P51が墜落》

戦争末期の1945年7月28日午後0時30分頃、河合村(現岩槻区)平林寺に米軍機P51が不時着しました。

P51は群馬県太田市付近の戦闘で損傷を受けた模様で、低空で飛来し、民家の屋根や立木と接触しながら、河合小学校の南側の野原に不時着しました。操縦士は飛行機から出てくると、竹槍などを持って近づいた住民にピストルで発砲しました。

近くの川通小学校や河合小学校に駐屯していた兵士が駆け付けたところ、彼は操縦席内にもどり、いったん降伏の意思を示しましたが、部隊長が近づいていくとまた発砲しました。そのため、日本兵たちは威嚇射撃の後、彼を射殺しました。

河合村大字平林寺の共同墓地に埋葬。

(参考:POW(Prisoner of War=戦争捕虜)研究会 web 資料)

▶綾瀬川をはさんでこちら側、丸ヶ崎新田の人の話「河合小学校の前の空き地に米軍機が墜落した。みんなで見に行って、さかさまにして足だけ出してうめちゃったらしいよ」(昭和26年生まれ男性)

「聞いた話だが、よってたかって殺しちゃったらしい。戦後、米軍が遺骨を回収していったそうだ。当時このことが発覚していたら捕虜虐待で罪に問われていたかもしれない」(昭和17年生まれ男性)

▶写真は丸ヶ崎新田の農家から出てきた開戦当時の新聞のスクラップの表紙です。墨で黒々と「大東亜戦争」と書かれています。戦後GHQが「大東亜戦争」の使用を禁止し、「太平洋戦争」が使われるようになりました。



今、76年前の母の日記を読む

本庄 秋谷博一

2019年10月17日に満95歳で母が亡くなった。その後、遺品整理の中で、母が子供の頃から90歳過ぎまで書き続けた80年分の日記が数十冊出てきた。母といっても、プライバシーを大切に、節目の部分を読ませてもらった。母は父親の仕事の関係で、実家は佐賀県、生まれは高知県、戦時中は北海道。大正13年生れ、終戦の時21歳でした。

この内容を第3回まで書くとは予想していなかったもので、話が重複や前後してしまい申し訳なく思っています。

(日記より)

『1945年7月14日 空襲(北海道・岩見沢)』

朝5時空襲警戒警報発令、サイレンが鳴る。相当な編隊らしい爆音が頭の上を通過するが姿は見えぬ。遂にやってきたか。遠くで爆弾の爆発の大きな響く音がする。あの下で市民はどんなに苦しんでいる事だろう。命を失った人もあると思うと胸がえぐられる気持ちがした。

『1945年7月15日 空襲』

(前回の新聞の内容記載)・・・空襲で今頃、札幌の父母、妹達は無事か・・・

『1945年7月29日 空襲』

昨晩は、また空襲警報、しかし、これからはこんなことにお構いなく、寝るに限る。睡眠不足になれば、こんな神経戦に負けてしまい、生産作業に大きく影響するから・・・。

この年の3月に東京の大空襲があり、とうとう7月には北海道まで空襲されはじめた。また、7月になってからの日記の日付の横に気になるメモが毎日のように小さく書いてあった。『〇〇さん 死亡の報』『受信 〇〇先生死亡』『〇〇さん 怪我入院』、ひどい時は『〇〇さん、〇〇さん、・・・〇〇さん 死亡』と複数人の名前があった。きっと、空襲等で亡くなった方の名前だと思う。

『1945年8月15日 敗戦』

前代未聞の陛下の御放送、それ程、時局が切迫しているのか。もったいない、恐れ多い。唯唯胸の圧されるを感ず。生まれて初めて玉音を拝聴す。また、その内容たるやあまりの事に、そのことを知らず、想像も及ばなかったことに唯唯地にひれ伏して我ら国民力の無ならざりしを悔い、お詫び申し上げる。私たちは敗戦国の国民か。

8月15日の敗戦の日の日記には北海道新聞の当日の記事が貼られ、原子爆弾の内容が細かに書かれていた。しかし、広島、長崎の原爆投下については、それまでの日記に記載はないので。知らなかったようだ。

その後の日記には食べ物の調達之苦や、空腹の毎日の生活が書かれていた。また、いつの世でも戦争は偽情報や、不利なことの隠蔽で国民をだまして、戦争を遂行する様子がよくわかる。現代も続いているプロパガンダ戦とまったく同じだ。本当の戦況を何も知らせられなかったことに母は相当落ち込んでいった。そんな日記の内容が続く。

母は5人姉妹の3女です。長女の夫は戦死、次女は産後の肥立ちが悪く出産後死亡、3女の母は戦後2年後に農家の群馬県の我が家に嫁ぎ、長男は流産、次男の私は出産後すぐに母が赤痢になり入院。乳児用のミルクのない時代、私ももうだめだと思われたが、伯父が同時期に生まれた母乳を分けてもらえる親探しに奔走。見つかって、毎日高崎市まで私に母乳を飲ませるため私を連れていった。私は生き延びた。妹の4女は妊娠時、サリドマイド入りの睡眠薬を服用したため、長男がサリドマイド障害となり苦しんだ。5女の妹は佐賀で実家を継いだ。

その頃はどこの家庭も生きるのが大変で、母も苦勞ばかりだったと思う。でも亡くなる前の母の会話の中に「昔は田植えの時期など、家族中で働く忙しさはあったけれど、隣組の人達とみんなで力を合わせてする農作業は楽しかったなあ。」という予想外の言葉があった。私は凄く嬉しく、ほっとしたことを思い出す。

日記の横にピアノ曲「愛国行進曲変奏曲」があった。発行日をみると、昭和17年3月25日とあった。こんなところまで、戦争は忍び込んでいたのかと思った。また、母が書いた「無」という書が沢山出てきた。何かから解放されたい気持ちを感じた。この日記を読んでいる間も、朝ドラの「カムカムエブリボディ」大河ドラマの「鎌倉殿の13人」等の戦争と殺し合いのドラマの放映、そしてロシアのウクライナ侵攻のニュース。母の日記と重なり、ウクライナ侵攻のニュースが出ると気分が悪くなり、一時はニュースを消すようになった。しかし、戦争の残虐性から目をそらすことは、それを認めることと同じなので、悲しくはなるが、見るようにしている。今は悲惨な戦争とコロナ感染症が早く終息することを祈る

編集 後記

今年も残り少なくなってしまうしました。コロナ、ロシアのウクライナへの侵攻で始まりとうとう今年中には収束する気配はありませんでした。そのお陰で退教の活動も思うようにはなりません。常任委員会はかろうじて2回、総会はいつもの対面式にはできずに異例の形でやらせていただきました。そのため故高橋会長の後任をやっと決められる事ができました。新会長に副会長であった石川さん(比企支部)、その副会長の後任に丸山さん(児玉支部)に決まり、さらに常任委員、事務局委員なども新規に補充され、この退教の新しい執行部体制で今後の退教の活動が活発に進められることと思います。ただ、最近の会員の減少続きが心配です。先の常任委員会でもこの件が取り上げられ、いかにして会員の減少を食い止めて、そしていかにして新会員を増やしていくかが取り上げられました。ここで是非皆さんのお知恵を頂きたいです。どしどし、ご意見を退教宛てにお送り下さい。退教のモットーの一つである「生きがいのある老後」にするために多くの会員の活動が必要です。どんな活動に取り組んでいったら良いか皆さんのご意見もお伺いしたいです。新しい執行部体制のもとで大勢の会員と実のある活動を進めていければと願っています。

事務局次長

炭谷 忠(高校)